

青森市港湾文化交流施設  
青函連絡船メモリアルシップ「八甲田丸」

(海の勉強会運営協議会)

海の勉強会 2015 (うみべん 2015)

実施期間：平成27年5月7日(木)～平成27年9月20日(日)



### 【事業の内容・目的】

- 港湾都市「青森市」のシンボル「青森市港湾文化交流施設“青函連絡船メモリアルシップ「八甲田丸」」に拠点を置き、その運営スタッフが中心となる運営協議会を設置することで、地域主導の社会教育体制を構築し、子どもたちを対象とした「海洋教育」を通して地域活性化を目指した。
- 海洋教育の一環として協議会が主催する「海の勉強会」活動を通し、社会教育ならではの視点から、古より海からの恩恵を受けて発展してきた地域の歴史や産業、自然環境を学び、今後における海との共存や海洋に関する自然環境を考え、豊かな海を次世代に引き継ぐことの大切さを再認識し、行動できる人材の育成への継続的な取り組みへの第一歩とした。

## 活動の様子

### 1. 海の勉強会 2015（うみべん 2015） in 青森市ウォーターフロント地区

【開催日時】平成27年7月5日（日）10:00～14:30

【開催場所】青森県青森市ウォーターフロント（ねぶたの家ワ・ラッセ西の広場）

【参加者数】40人

【活動内容・目的】

●地域の海における海洋環境とわたし達の暮らしの関わりについて、多岐にわたる体験型のイベントに参加しながら再認識するとともに、「海」への興味・関心を持つ機会とした。

- ・魚・アマモ・環境のお勉強
- ・シーカヤック体験（ホタテ放流）
- ・青森の恵みを食す
- ・船についてのお話
- ・青森港クルージング

【魚・アマモ・環境のお勉強】



アマモ場をテーマに海の環境を説明



アマモ場を管理するスタッフによる説明



地域の海の現状を親子で学びました



楽しく学べる講義を心掛けました

むつ湾のアマモ場を見学、観察し、海のゆりかごと言われるアマモについて研究者から学び、地域の海における自然環境を知ること、今後における海との共存について考える機会を創出しました。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

## 【シーカヤック体験（ホタテ放流）】



水産関連の専門家による生きもの解説



身近な食生活と水産について関連した講義

・地域ならではの視点で、「むつ湾」の特産品「ホタテ」などについて水産関連の専門家から学びました。



シーカヤックから稚魚を放流している様子



身近な海にふれあう機会を創出しました

普段、海にふれることの少ない子どもたちに対して、海洋レジャーの一環としてシーカヤックを体験しました。また同時に「ホタテ」の稚貝を放流するなど海洋生物の生態や地域の海に対する興味や関心を持つキッカケとしました。

## 【青森の恵みを食す】



「ホタテ」の稚貝を放流したあとに、食育の一環として親貝を食す機会を創出しました。



普段、食卓にならぶ海産物について、大切な海からの恵として学びました

### 【青森の恵みを食す】



地域の海から獲れたことを意識して食す機会となりました



家族で楽しむ海での楽しい思い出づくり

### 【船についてのお話】



地元の造船関連専門家による船舶の講義



地域の海をテーマに開催した勉強会では、様々なプログラムを用意しました

地元造船業界の専門家から船の特性などを学ぶとともに、港湾都市「青森市」ならではの歴史、わたし達の暮らしにおける「船」の存在と重要性を再認識する機会とした。

### 【青森港クルージング】



乗船前に救命胴衣を着用



乗船の様子

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等ではできません。



青森港をクルージング



クルージングの様子



普段、見ることはない海から見る  
わたしたちのまち「青森」



船内では、港湾関係者による青森港の歴史  
やはたらきの説明を受けました

実際に船に乗船し、海から地域を見る機会を創出するとともに、青森港の歴史などについて教育を受けた。

### 【参加者の声】

- アマモの海への役割を学ぶ事が出来、きれいな青森の海をずっと維持したいと思いました。
- アマモという海草について知り、海をきたなくすると困る生き物がいっぱいいるから守りたくなった。また魚の調理法や食べられる所、駄目な所が知りたいです。
- 海について関心がなかったけれど、海の生き物達のためにももっと海を意識して取り組んで行こうという気持ちになり、海のことをもっと知りたくなりました。

## 2. 海の勉強会 2015（うみべん 2015）in 茂浦

【開催日時】平成27年8月9日（日）8：45～15：30

【開催場所】青森県平内町茂浦（もうらだいすき海岸）

【参加者数】42人

【活動内容・目的】

●市街地から少し離れた地域の海を舞台に、多岐にわたる体験型のイベントに参加しながら海洋環境とわたし達の暮らしの関わりについて、再認識するとともに、「海」への興味・関心を持つ機会とした。

- ・地引網体験と獲れた海洋生物調査
- ・海辺でBBQ（食育）
- ・海とふれあおう（海水浴・救命道具で浮く練習）

【地引網体験と獲れた海洋生物調査】



地引網の体験を通して、海とふれあう機会を創出しました



地引網体験の様子



海洋生物の説明を受けている様子



地元漁師との交流による漁業文化・海域生態を学ぶ。その後、漁師の指導による地引き網体験を実施し、海の恵みについて体で感じ漁業・水産生物に関する知見を得て、海へ感謝する心が芽生える事により、大事にしていく活動をするきっかけをつくった。

【救急救命の勉強】



海上保安庁の協力による海の安全教育



安全に楽しく学ぶ第一歩としての講習



救命胴衣の浮力を体感してもらいました



救命胴衣の大切さを実感している様子

海上保安庁による海の危険性などの安全教育を受けた。その後、海難事故防止につながる救命胴衣の重要性を知るために実際に体験しながら学んだ。

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

## 【海辺で BBQ（食育）】



地引網の体験後は、食育の一環として地域の特産であるホタテを食しました



地域の海の恵みを意識する機会となりました



海で楽しみ、学び、海で食す



家族と、友達と  
海での楽しい思い出づくり

## 【参加者の声】

- 救命胴衣で浮く体験が出来、良かったです。またアマモの大切さも知りました。陸に捨てたゴミが海のゴミの大半だという事を知り、陸上でゴミを捨てないようにしようと思った。
- 自分たちで網を引き、魚が獲れた喜びやとれたての魚のおいしさを満喫できた。そのためにもアマモはなくてはならないものと学ぶ事ができ、海を守りたくなりました。今回の企画に大満足です。きれいな海づくりという事で言えば海岸のゴミ拾いなどがあれば参加したいです。
- 子供に海の事を分かってもらう事は非常に有意義だと感じました。今後もこのような活動を進めて欲しいです。また今後海の危険生物の勉強をしたいです。

### 3. 海の勉強会 2015（うみべん 2015）

#### Seaside school in 野辺地

【開催日時】平成27年8月22日（土）～23日（日）

【開催場所】

- ・青森県野辺地町
- ・野辺地町漁業協同組合
- ・十符ヶ浦海水浴場
- ・柴崎地区健康レクリエーション施設

【参加者数】 28人

【活動内容・目的】

- 海での観察活動や保全活動をするためのスキルを学ぶためにシュノーケリング教室を開催し、自分が観察できる範囲が広がることで自己有用感を高めることにより継続した海での活動を促した。
- 海と人間とのつきあい方について学ぶために、船に乗船しホタテ養殖漁業を見学後、稚魚を放流し今後の海との関係について考える機会とした。
- 「海洋」を舞台に社会技能（ソーシャルスキル）向上を図ることを目的に同世代と1泊2日の共同生活を行なった。



シュノーケリング教室の座学の様子



専門家による事前学習を実施



事前にゴーグルを合わせます



海での活動が待ちきれない様子



実践前の準備、確認



指導員による基本事項の教習



まずは、浅瀬から体験開始



シュノーケリングに慣れるまで浅瀬で体験



シュノーケリングに慣れたところで、  
ステップアップ講習



磯場でのシュノーケリングの挑戦



本格的なシュノーケリング体験



普段は乗れない「漁船」の乗船体験

漁師さんとの交流



漁船から稚魚を放流する様子

【来館者の声】

- シュノーケリングは今まで危険というイメージが強くあまり子供にはやらせたくなかったが、実は安全でとても楽しいものだとなった。むつ湾でのアマモの減少が進み地域で取り組んでいく必要があると思ったので役割や現状の勉強をしていきたいです。
- シュノーケリングだけでなく、地元の漁業について学ぶ事が出来ました。シュノーケリングは今後親子でやってみたいと思いました。またより魚に近づき観察するためにもスキューバダイビングをやってみたい。
- 漁船に乗っていて海面にペットボトルが浮いていてゴミは絶対海へ捨てないと子供と話しました。キレイなむつ湾を守りたいです。ホタテの事をもっと知りたくなりました。

## 【事業全体のまとめ】

- これまでは、青森市内だけでの開催だったが、今回から県内の違う海域で活動できた事は、今後の活動に幅が持てることが確認できた。
- 県内だけでも場所によって、「海」の持つ特徴や役割の変化を参加者のみならず、スタッフも実感できた。
- 「海」という自然環境が持つ魅力は、特別こちらから仕掛ける必要はなく、そこにある自然や生物を単純に楽しみながら学べることを多くの方々にも知ってもらえた。
- 全内容で『勉強になった。』『楽しかった。』『充実した。』と感想いただき、今後は『キレイな海を守りたい・よくしたい』や『もっと知りたい』などの海への好奇心や関わり方などを十分に考えさせられる事が出来、今後このような方たちと共に海の活動をしていけるような体制の構築をも念頭にしたい。
- 小学生だけでなく大人の方の関心も深め世代別の勉強や活動を展開していこうと思う。
- 今後の活動展開として、思い出だけ残すのではなく学んだ事ややった事のミッションにより単位を設け級や段位などを与えるなどの制度を設けるなど、継続した海での活動を促したい。
- 今回の活動では、NPOを中心に地方公共団体（県と市）や、団体漁協などの機関、団体と幅広く連携する事が出来き、今後における「海洋」を舞台とした地域活性とともに地域の教育制度の一環として自立していく第一歩となった感がある。

## 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. 青森市教室委員会	青森市内各小学校への募集用チラシの配布
2. 青森海上保安部	海の安全についての講師
3. (株)北浜造船鉄工	船についてのお話しの講師
4. 野辺地町漁業協同組合	漁業のお話しの講師
5. 生活協同組合コープあおもり	魚の勉強会の講師

## 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1. 東奥日報社	8月19日（水）

以上